

貴重資料保管室が完成

学術情報課長 酒井 量基

官立弘前高等学校資料を始めとする本学の建学に関わる文献、附属図書館が所蔵する津軽地方の歴史を検証するための貴重資料を良好な環境の下で保管し、教育・研究に供するため、附属図書館3階の視聴覚室（165㎡）を改修し、新たに貴重資料保管室が3月31日に完成した。

全体の広さは165㎡で第1保管庫、第2保管庫、作業・閲覧室それぞれ55㎡からなる。



貴重資料保管室



第1保管庫

第1保管庫は、貴重資料に指定された刊本、写本、稀少資料などの紙媒体資料を保管するため、常時60%以下の湿度に保つための空調設備を施した。

また、防火・防災対策として、最新の窒素ガス消火設備と資料を収納する書架には、転倒防止や落下防止対策を施した。

第2保管庫は、附属図書館保管の官立弘前高等学校で使用されていた教材、器材などの遺物資料を保管する。

作業・閲覧室は、文字どおり資料整理や閲覧用に使用するスペースである。

運用面では、資料を教育・研究等に活用できるよう閲覧、貸出し、出版物への掲載などについて「貴重資料取扱要項」を定めた。

また、収納する貴重資料については、附属図書館運営委員会に諮り決定される。3月25日に第1回の審査が行われ「津軽領元禄国絵図写」1点、「官立弘前高等学校資料群」1055点が指定された。今後、和書、中国書、洋書、郷土資料及び本学の沿革に関わる資料を調査していく予定である。



窒素ガス消火設備

お問い合わせは、情報サービスグループ（jm3162）まで。

（さかい りょうき）

貴重資料の利用案内

- 1 弘前大学附属図書館では、弘前大学の沿革資料・古文書・記録のうち、貴重資料取扱要項別表「弘前大学附属図書館貴重資料指定基準」に基づき指定された資料を別置き保管管理しています。これらの資料の利用にあたっては、個人情報の保護、資料の破損・劣化防止及び散逸防止のために、以下の条件の下で利用していただくこととしています。
- 2 閲覧日と時間
 - ① 閲覧日 月曜日～金曜日（休館日を除く）
 - ② 閲覧時間 午前10時～正午、午後1時～午後4時
- 3 閲覧方法等
 - ① 資料の閲覧は、館内の所定の場所で行なってください。
 - ② 閲覧を終了した資料は、職員の確認を受けてください。
- 4 貴重資料の閲覧及び複写・撮影を希望される場合は、所定の「資料特別利用許可申請書」を提出してください。なお、次の場合は、閲覧、利用を制限します。
 - ① 個人に関する情報の記載のある資料（公にすることにより、個人の権利・利害を害するおそれのあるもの）。
 - ② 当該資料の原本を利用させることにより、当該原本の破損もしくはその汚損を生じるおそれがあるもの。
 - ③ 特殊資料（大型資料で展開が困難なもの。その場合は、資料の写真版を閲覧することができます。）
- 5 資料の貸出しは、学術研究、教育等及び公共目的を持つ事業の用に供する場合であって、亡失・汚損に十分な配慮がなされていることを条件に、貸出しを受けることができます。
- 6 出版物・放映物（Web ページ含む）への写真掲載をご希望の方は、別に「出版物等掲載申請書」をご提出ください。当館で内容を審査したのち、掲載許可書を送付いたします。なお、出版物に掲載した場合は、掲載誌（本）1冊の寄贈をお願いします。

電子ジャーナルアンケート結果について

雑誌情報担当 中田 晶子

昨年10月、電子ジャーナル購読経費増加への対応として、教員の意向を把握するために電子ジャーナルの利用に関するアンケートを全教員対象に実施しました。このアンケートは電子ジャーナルの導入以来初めて実施されたもので、電子ジャーナルの整備計画を立てるにあたり、重要な参考資料となりました。

紙面の都合上、ここで述べるのは回答結果の概説に留めますが、回答結果の詳細は図書館ホームページ上で閲覧可能です。

(<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/local/kekka2008/kekka2008.htm> 学内限定)

アンケートの実施期間は平成20年10月17日～27日、調査方法は調査票を対象者に配布し、部局に設置した回収箱へ調査票を投函してもらう方法を取りました。

回答率は36%で、部局によりばらつきが見られ、電子ジャーナルの利用率が高い部局ほど回答率が高い傾向が見られました。

設問1の「電子ジャーナルは弘前大学の学術情報基盤として必要だと思いますか？」については、「絶対必要である」と「必要と思う」という回答が全体の92%を占め、電子ジャーナルの必要性が全学的に認識されている結果となりました。

設問2の「現在購読中の電子ジャーナルパッケージについて、今後も必要と思われるもの」については、ScienceDirectが72%、WileyInterScienceが56%、Oxfordが44%、Scienceが41%、APS-Allが17%と、回答率が利用件数にほぼ比例した結果となりました。

設問3-1は、個々の電子ジャーナルへアクセスするための利用経路を把握するために設けた項目ですが、アクセスするにあたって図書館ホームページの電子ジャーナルリストが一番活用されていることがわかりました。医学研究科や農学生命科学部では「データベースの検索結果から」という回答も多かったのですが、これについては医学・生命科学分野の無料データベースである『PubMed』の検索結果から購読契約中の電子ジャーナル本文へアクセスできるようにリンク付けを行っているため、利用者の多くが『PubMed』を利用していると推測できます。また設問3-2は、電子ジャーナルパッケージの利用頻度やタイトル数についての調査でしたが、ScienceDirectを週1、2回のペースで利用する利用者が多く、それ以外のパッケージは、利用する人と全く利用しない人に二極化する傾向があることが明らかになりました。利用するタイトル数については、ScienceDirectとWileyInterScienceについては平均3~5タイトル、OxfordとAPS-Allについては1~2タイトルを利用するという回答が約半数を占めました。ScienceDirectについては、平均10~15タイトルという回答も次いで多く、タイトルを多数利用する利用者も少なくないことが伺えます。

設問4のパッケージ以外の電子ジャーナルの利用状況に関する項目では、図書館で購読契約をしていないタイトルがいくつか挙げられていたため、個人購読しているかあるいはアクセス可能なバックファイルを利用している可能性が浮かび上がった結果となりました。

設問5は、今後整備して欲しい電子ジャーナルに関する調査でしたが、この結果、要望第1位となった「Nature」本誌が予算化され、平成21年4月から購読を開始しました。また「Nature」本誌のみならず、医学研究科を中心にNature関連誌に対する要望が多く、理工学研究科や農学生命科学部でもそれぞれの分野の電子ジャーナルに対する要望が数多く挙がりました。またジャーナルに混じってデータベースも多数挙がり、データベースへの要望も多いことが判明しました。

設問6の電子ジャーナルへの経費負担についての調査では、「全額を全学経費」が全体の44%を占め、全額経費での負担を希望する利用者が半数近くを占めていました。しかし「全額経費

と部局の受益者負担」も全体の 35%を占めていたため、受益者負担を支持する教員も少なからずいる状況と言えます。

今回のアンケートを通して、個別の教員の意識や利用状況が数値化され、教員の率直な意見が寄せられました。成果としては「Nature」誌購読の実現という形で反映されました。一方で、アンケート結果では ScienceDirect に次いで需要が高かったのにも関わらず、経費負担の目処がつかずに Wiley-Blackwell 社電子ジャーナルの購読を中止することになりました。

このアンケートは、設問や回答方法、実施時期を見直し、今後も継続的な実施を図っていきたいと思います。今後ともご協力をお願いいたします。

(なかた あきこ)

医学部分館リニューアルオープン

医学情報グループ 須田 久美子

医学部分館は改修工事のため昨年 8 月より医学部総合研究棟内の仮移転場所にてサービスを行っていましたが、竣工に伴い元の場所に再移転いたしました。また、本町地区の図書館資料の集約を図るため、保健学科分室と統合し、5 月 18 日より新医学部分館としてリニューアルオープンしました。改修工事中は、サービスの制限等で利用者の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。ご理解ご協力をいただき感謝いたします。

分館・分室の統合にあわせて、雑誌貸出期間の延長、館内へのカバン等の持ち込みを認めるなど、利用者サービスの改善も図りました。それぞれの図書館になかった資料がひとつの空間に納まることで、互いに補完し合う豊かな蔵書を構築し、利用者の皆様の学習や研究に貢献できるよう引き続きサービスの向上に努めて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

(すだ くみこ)



リニューアルオープンした医学部分館